
Rule Out

ぶち

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Rule Out

【NNコード】

N8177B

【作者名】

ぶち

【あらすじ】

夜空と星と月と、人を大切にする少年の、ちょっと捻くれたお話。
超短編です。

人の世というのは不思議だ。

奴らはやたらと群れたがるくせに、その傍らで自分と違う誰かを跳ね除けようとしている。きちんとした制度や法律があるのに、その裏には必ず暗黙の領域が存在し、そいつはいつもブラックホールのように口を開けて、人間という種の汚い物を吸い込んでいく。牙だけの、暗い穴。飲み込まれたら最後、陽の当たる場所へは戻れない。

なんともまあ、重たい話だ。人種だの国境だの民族だの、そんなものは全部、白紙に戻ればいいのに。

そんなワケで、俺は世界を真っ白にしようと思つた。まるで誘蛾灯に魅せられたように、沈黙を破りうとした。ただ、それだけだった。

「痛つ」

唇から零れる赤が、シャツの上を苦い色で彩る。

口の中が切れてる。あれだけ殴られたんだから仕方ないか。むしろ歯が折れていなつて事が、半ば奇跡的なぐらいだ。

「……」

見上げた夜空には星がなく、青く冷たい感覚が俺の全てを飲み込んでしまった。

「飲み込まれて、しまえばいいのに」

何もかも飲み込まれて溶かされるなら、どれほど楽になるだろう。俺をタコにしたあいつらを、今まで歩んできた道を、俺という存在自身を そして、人種というステイタスを。

全部消えてしまえばいい。どいつもこいつも小綺麗な仮面の奥底に、言いようのない鋭い毒牙を隠している。笑顔なんてのは、その先にある奈落の予兆に過ぎない。

差別なんて大嫌いだ。

疎外なんて大嫌いだ。

命なんて、もっと嫌いだ。

なのに、どうして。

「人間なんて……」

大嫌いだ、と俺は言えないのか。

「……」

分かつてる。答えは分かりきっている。ただ、認める」とも否定することも、今の俺には出来ないだけで。

何もかも無くなれば、楽になる。だけど、それは、幸せになる、つて事とは違う。

もう一度、空を見上げる。相変わらず星の輝きは褪せたままだが、くたびれたビルの影から、煌々と輝く月が顔を出していた。そうか、星が見えなかつたのは、こいつが明る過ぎたからだったのか。

否定できるものは全て否定した。要らないものは全て睡を吐きかけた。

だけど、いま此処に在るソレだけは、誰にも否定させてやらない。

「畜生……俺は人間だ」

奴らがそうであるように、俺だつてそうなんだ。

俺がそうであるように、奴らだつて。

だから、人間を嫌いになることは出来ない。
ましてや否定なんて、出来るはずがないんだ。

それを妨げるルールがあるなら、そんなモンは俺が引き裂いてやる。

少なくともその時までは、俺は俺の肌を愛し、俺の血を誇り、俺の全てを担いでいく。

いつしか空には星が煌き、俺を暖かく見守っていた。

「人間を舐めんな、人間ども」
撻破りの遠吠えが、夜の風に舞い、世の闇を揺らす。

(後書き)

いかかでしたか。

一作目からこんな濃いものを…と思いながらの投稿なのですが。
こいつはですね、気合とノリだけで書き上げたじゃじゃ馬です。ちなみに製作期間は構想段階から数えて約一時間。
ですので、所々で詰めの甘い点がありますが、ま、それも「愛嬌」といふことで。

よければ感想、よろしくお願ひします。

これからもぶちをよろしくして貰えるとありがたいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8177b/>

Rule Out

2010年12月11日14時39分発行